

## 大会シンポジウム

# 言語文化教育と クリエイティビティ

13:30-16:00

### シンポジスト

佐々木雅幸 (同志社大学)

佐藤博志 (筑波大学)

吉田真理子 (津田塾大学)

### 司会

飛田勘文 (早稲田大学)

### 3月7日(土)

ワールド・カフェ  
大会シンポジウム  
口頭発表

### 3月8日(日)

フォーラム  
パネルセッション  
口頭発表  
ポスター発表

### 参加費

会員 2000円  
非会員 4000円

### 詳細情報

<http://alce.jp/annual/2019>

### 問い合わせ

[annual@alce.jp](mailto:annual@alce.jp)

### 協賛

大谷書店  
カシオ計算機  
グットハーモニー協同組合  
ココ出版  
スリーエーネットワーク  
ラーンズ

\*本大会の託児所は協賛金により運営されております。

### 後援

同志社大学日本語日本文化教育センター

言語文化教育研究学会

第6回年次大会

# 言語文化教育と クリエイティビティ

2020年3月7日(土)~8日(日)

同志社大学(京都今出川キャンパス)

creativity

# 言語文化教育研究学会第6回年次大会

# 言語文化教育と クリエイティビティ

## 趣旨

私たちは、祖先が作り上げてきたことばや文化を与えられたものとして身につけ、他者と会話し、生活を営む。その一方で、私たちは、新しいことばや文化を生み出すことが可能である。もし、ことばや文化が私たちが定義するものと考えれば、私たちが、自分たちの手でことばや文化を新しく生み出すことは、既存のことばや文化の枠組みの中で「自分たちが誰か」を確立するのではなく、自分たちの手で「自分たちが誰か」を決定することに繋がる。その意味で、創造は、人が生きるうえで必要不可欠である。

第6回年次大会では「言語文化教育とクリエイティビティ」をテーマに掲げ、今後、言語文化

教育を拡張していくための議論を行う。学習者があらゆる場面でクリエイティビティを発揮できる学習環境とはどのようなものかを模索するとともに、クリエイティブ・ラーニング、教師のクリエイティビティ、創造産業・創造都市／農村とことばの教育、Society 5.0の社会における新しいことばの創造など、言語文化教育とクリエイティビティを取り巻くさまざまな問題について検討する。本大会においては、言語教育の実践者・研究者のみならず、教育学、芸術学、経済学、医学、社会福祉学など、他の学術領域に所属する方々の積極的な参加を期待するとともに、言語教育と複数の学術領域を積極的に交差させることによって、その化学反応から、新たな視点や価値の創造に挑戦したい。

## シンポジスト／プロフィール

佐々木雅幸

同志社大学

文化経済学, 都市経済学

佐藤博志

筑波大学

教育学, 学校経営学

吉田真理子

津田塾大学

英語教育, ドラマ教育

文化産業を核とする都市に着目した創造都市論を展開している。また、文化庁地域文化創生本部総括・政策研究グループ主任研究官や創造都市ネットワーク日本の顧問を務めるなど、理論と実践の両面から、全国の創造都市を推進する政策支援活動を行なっている。

オーストラリアの教育政策を専門とし、日本、オーストラリア、ニュージーランド、イギリスの初等中等教育について比較研究を進めている。また、教育言説の分析から日本におけるゆとり教育批判について再検討を行った。学校改革を進める校長の力量と行動や、国際バカロレアと探究学習についても関心をもつ。

初等教育での外国語(英語)活動において、ストーリーテリングやドラマ的な活動を取り入れたプロジェクト重視型学習を行うことの効果について研究を行っている。近隣小学校と連携した英語教育セミナーを開催し、外国語活動における声かけやサポートについて、フィールドワークを通じて検討している。

司会: 飛田勘文

早稲田大学

言語的・社会的・文化的差異がある中での芸術によるコミュニティの形成をテーマとする実践と研究を行う。また、英語圏の児童青少年演劇の戯曲の翻訳、障がい児対象の参加型演劇の演出、演劇を導入した日本語・英語教育や異文化間教育などの教材開発に協力。主著:『多文化共生 人が変わる, 社会を変える』(共著)ほか。

## コーディネーター

佐藤慎司  
プリンストン大学

飛田勘文  
早稲田大学

牲川波都季  
関西学院大学

嶋津百代  
関西大学

## 参加方法

参加自由。事前申し込み不要。

\*予稿集は学会ウェブサイトよりダウンロード(紙媒体でのご用意はありません)。2月下旬公開予定。